

第3回 実技研修
生成AI活用力 レベルアップ 資料2

令和8年1月13日(火)14:00～16:00
@旭川市立高台小学校 4年2組教室



生成AIを「使わせない」から **「賢く使う」への第一歩**

—生成AIへの「冷静な態度」を養う実践事例から考える—



北海道教育大学附属旭川小学校 主幹教諭 菊池勇希

kikuchi.yuki@a.hokkyodai.ac.jp

本発表の問い合わせと主張

問い合わせ

生成AIをよりよく使うには
何が必要なのか？



主張

「活用スキル」の育成よりも
「冷静な態度」
を育てる



恋は盲目



経験を基に「どんな人が素敵なお人なのか」見極める力 が重要
恋に落ちたあとに「やめておきなさい」では意味がない

鈴木秀樹・安藤昇・安井正樹(2024)「ChatGPTと共に育む学びと心」を参考に作成

生成AIに盲目であってはいけない



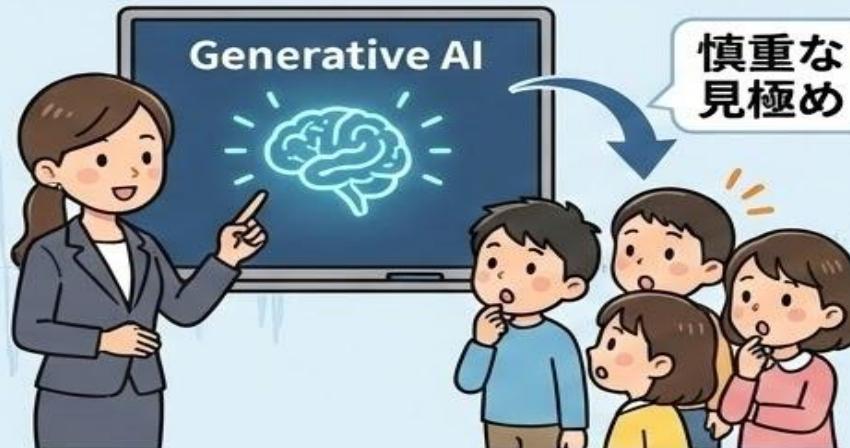
経験を基に「どんな使い方がよい使い方か」見極める力が重要
自分にとって「賢く使う」ための方法を見付けることが大事

鈴木秀樹・安藤昇・安井正樹(2024)「ChatGPTと共に育む学びと心」を参考に作成

生成AIに対する「冷静な態度」

生成AIに対する「冷静な態度」

文部科学省 (2024)



- ・小学生による生成AIの直接利用は慎重な見極めが必要
- ・まずは教師による実演や体験から、生成AIに対する「冷静な態度」を養うことが重要

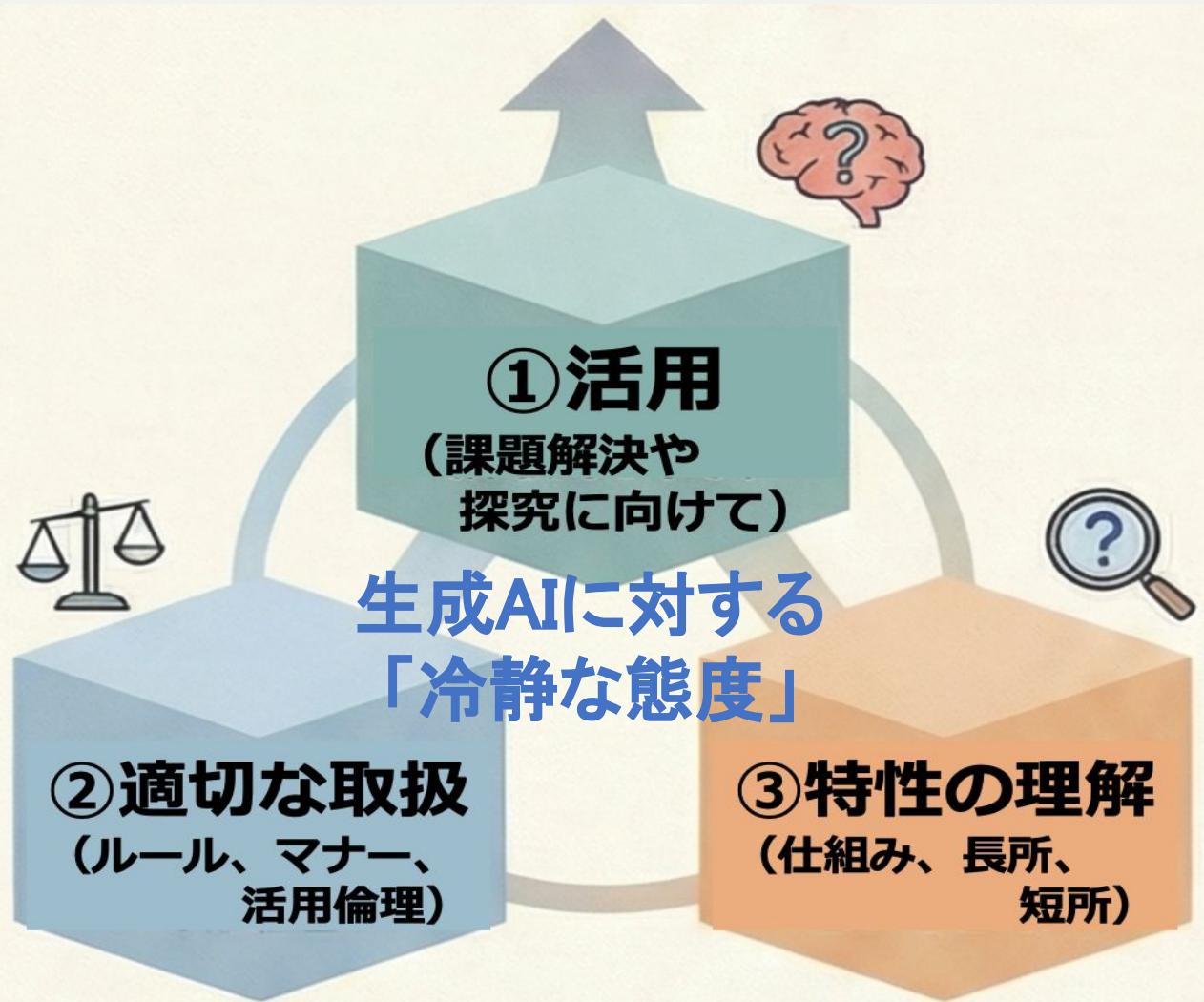
鈴木 (2025)



- ・児童が生成AIを直接触れる前に、教師が生成AIを活用
- ・生成AIの出力を子供に共有し「冷静な態度」を養う。

文部科学省(2024)「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」、鈴木秀樹(2025)「非常識な授業づくり」を参考に作成

文科省の枠組みと本実践の位置付け



文部科学省(2025)「教育課程企画特別部会 論点整理」を参考に作成

文部科学省(2025)

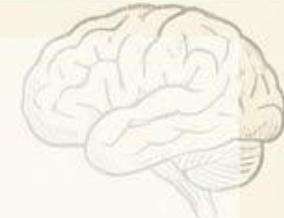
<小学校段階>

- ・体験的な活動を重視
- ・「①活用」を核とし、
「②適切な取扱」と
「③特性の理解」を共に育成



生成AIについての
「適切な取扱」「特性の理解」を
土台にして
よりよい「活用」につなげる
生成AIに対する「冷静な態度」

本研究における「冷静な態度」



生成AIの出力を**無批判に受容せず**
その利点と限界を認識しながら
自身の思考と照らし合わせて**適切に判断・活用する姿勢**



具体的な観察指標 (3つの物差し)



特性の両面認識

「便利さ」と「限界」の
両方を理解している



使用場面の判断意識

「使う」と「使わない」を
自分で区別しようとする



出力への批判的吟味

出力を鵜呑みにせず
問題点を具体的に指摘できる



実践の全体設計

1時間目：特別活動

「便利な道具、どう使う？」

<ねらい>

生成AIの利点とリスクを理解し
主体的に正しく使う態度の育成
【②適切な取扱】 【③特性の理解】



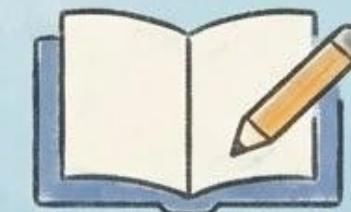
つなぐ

2時間目：国語科

「ウミガメの命を守る」

<ねらい>

自分・友達・生成AIの要約を
比較し、自らの考えを深める
【①活用】



生成AIに対する「冷静な態度」がどのように形成されるかを分析

分析資料：授業の逐語録、ワークシート・振り返りの記述



特活の結果①: 冒頭の反応

【4年 学活「便利な道具、どう使う？」】

生成AIデモ
(詩/イラスト)

生成AIの
利点とリスク

生成AIの
よい使い方
よくない使い方

便利な道具との
向き合い方

AI体験後の感想分析



■利便性と限界の両方を指摘
(学級の約6割)

「すごいけど、
心がこもっていない 感じがする」

「秒でできるけど、
自分でやった方が達成感がある」

→ 「すごい」と「怖い」の間にある揺らぎ



特活の結果②: 判断の葛藤

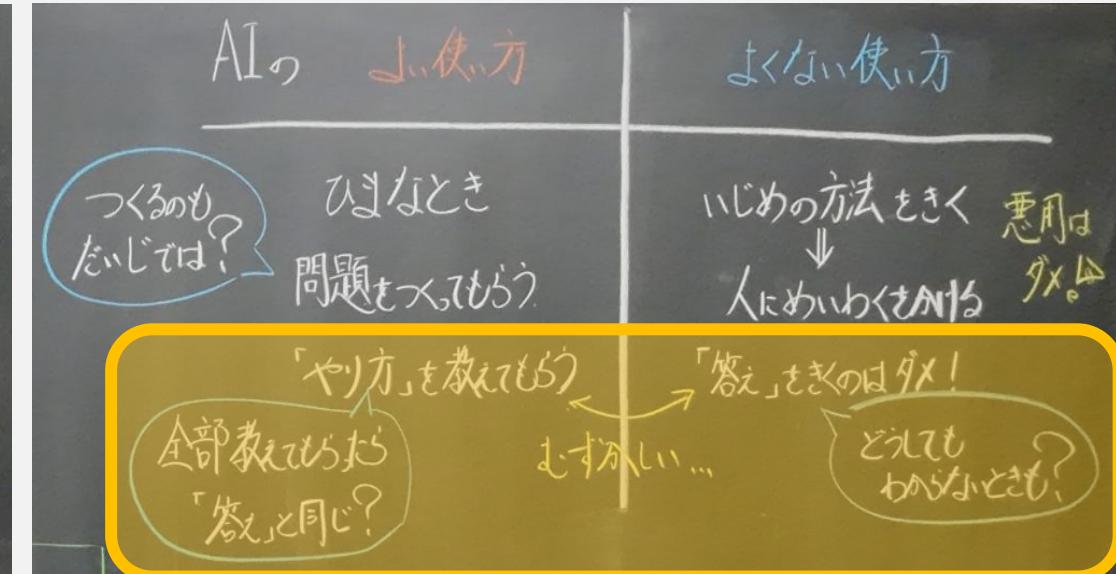
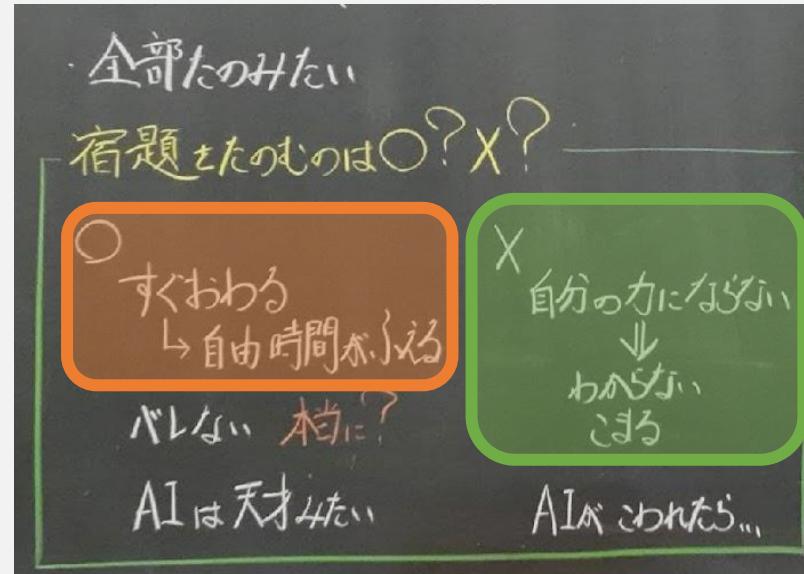
【4年 学活「便利な道具、どう使う？」】

生成AIデモ
(詩/イラスト)

生成AIの
利点とリスク

生成AIの
よい使い方
よくない使い方

便利な道具との
向き合い方



生活経験とつなげた生成AIの適切な活用場面の検討

- ・「『やり方』を教えてもらうのは○?」「『答え』を聞くのは×！」
- ・○か×かを判断するのは、「難しい…」「その時による」

特活の結果③：終末の振り返り

振り返りの記述分析

【4年 学活「便利な道具、どう使う？」】

生成AIデモ
(詩/イラスト)

生成AIの
利点とリスク

生成AIの
よい使い方
よくない使い方

便利な道具との
向き合い方

「使って良い時と悪い時があるのを知った」

「困った時に、必要に応じて使いたい」

「頼りすぎず、自分で考えることが大事」

感情的反応
(すごい・怖い)



使用場面の判断意識
(②適切な取扱)

17名

判断基準あり
(約60%)

11名

その他

【見られた学びの姿】

- ・対比(人間/AI)から、作品の性質差に着目<批判>
- ・生成AIの使用可否を判断して言語化<生成AI>
- ・場面に応じた可否理由を多面的に説明<倫理>

国語での仕掛け：AI要約との比較

【4年・国語「ウミガメの命を守る」】

「要約」の意味を確認

生成AIの要約と自分の要約を比較

互いの要約のよいところや改善点を指摘

自分の要約の改善点や今日の学びの整理



児童に提示したAI要約

ウミガメは日本の南半分の海岸でたまごを産みますが、ぜつめつのおそれがある動物です。名古屋港水族館では、人工のすなはまをつくり、たまごを産ませたり、子ガメを海に放流したりして保護の研究を進めています。送信機やタグを使い、ウミガメが成長して日本に戻るまでの行動を調べました。また、長い旅を終えて日本に戻ったウミガメの生活も新たに研究しています。水族館は生き物の保護とくらしを知る大切な場所です。

教師の入力

» 次の文章を、小学生にもわかるように、120～150字でまとめてください。



教師の意図

あえて「視点」を指定しない汎用的なプロンプトを使用



AIの網羅的に要約する特徴を生かし批判的検討の教材とする

国語の結果①: 批判的吟味

【4年・国語「ウミガメの命を守る」】

「要約」の意味を確認

生成AIの要約と自分の要約を比較

互いの要約のよいところや改善点を指摘

自分の要約の改善点や今日の学びの整理

▲ AI要約への批判

「水族館、産卵、研究のことが混ざって、ごちゃごちゃしている」



友達の要約への評価

「Aさんの要約は、水族館の仕事に絞っているから分かりやすい」



要約には中心・視点が必要

私は、水族館で見ることができることで、二十世紀半ば頃から世界でウミガメを保護しようと様々な取り組みが行われるようになります。そこで、愛知県内の名古屋港水族館では、ウミガメを増やすため色々な取り組みが行われています。私は、ウミガメが絶滅の恐れがあることで、世界中がウミガメの保護の活動を行なったことがとてもすごいと思いました。

感想：
私は、ウミガメが絶滅の恐れがあることで、世界中がウミガメの保護の活動を行なったことがとてもすごいと思いました。

ウミガメの命をつなぐために

国語の結果②: 活用への気付き

【4年 国語「ウミガメの命を守る」】

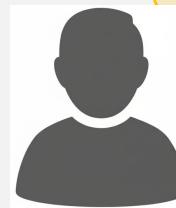
「要約」の意味を確認

生成AIの要約と自分の要約を比較

互いの要約のよいところや改善点を指摘

自分の要約の改善点や今日の学びの整理

産卵を中心にして
書いてと言ったら…
AIもよい要約が
書けるんじゃない？



児童に提示したAI要約

ウミガメは日本の南半分の海岸でたまごを産みますが、ぜつめつのおそれがある動物です。名古屋港水族館では、人工のすなはまをつくり、たまごを産ませたり、子ガメを海に放流したりして保護の研究を進めています。送信機やタグを使い、ウミガメが成長して日本に戻るまでの行動を調べました。また、長い旅を終えて日本に戻ったウミガメの生活も新たに研究しています。水族館は生き物の保護とくらしを知る大切な場所です。

【見られた学びの姿】

- ・対比(人間/AI)から、作品の性質差に着目〈批判〉
- ・「伝えたいこと」を観点に、自分の要約を再構成〈創造〉
- ・プロンプトの工夫の必要性への気付き〈生成AI〉



考察:「冷静な態度」の形成モデル

「②適切な取扱」 「③特性の理解」 を土台にすることで、
「①活用」 が「人間中心のAI活用」 へと進化する

Step 1
特性の
両面認識



Step 2
使用場面の
判断意識



Step 3
批判的吟味と
指示の工夫



NEW!



考察：本研究の意義

「情報の領域」の先行的具体化



文科省が構想する「情報ブロック」と「ミニ探究」の具体的事例として、総合的な学習の時間以外の教科横断的な指導モデルとして具現化した。

指導順序の有効性の実証



「態度（②③）」を先に形成することで、「スキル（①）」の学習が単なる操作ではなく「人間中心の利用」へと深まることを示した。

「冷静な態度」の指標化



抽象的な「態度」を、観察可能な3つの指標（両面認識・判断・吟味）で捉え、評価可能な枠組みとして提案した。

「使う前に、何を教えるか」が、AI活用の質を決定づける。

実践に基づく新たな体系表（試案）

領域	4年	5年	6年
操作	取り出す・保存・共有できる	収集→整理→共有を自律運用できる	目的から手段を設計し理由を説明できる
生成AI活用	自分の考えと提案を比べ、使う／使わないを言語化できる	目的・時間・正確さ・権利で基準化し範囲を決められる	使い方を計画→実施→改善できる
批判	情報を照合し、違いと出典を示せる	複数資料を根拠で比較し、限界や前提を述べられる	反対意見で主張を再構成し、結論を更新できる
創造	観点を加えて言い換え・再構成できる	複数観点を組み合わせ、より妥当な考え方を作れる	改善案／新提案を根拠・手順・効果付きで示せる
倫理	場面に応じた可否理由を説明できる	個人情報・著作権・公正へ配慮できる	自由×安全、権利×公平を両立し妥当案を示せる

資質能力	分類	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学校
知識及び技能	情報技術の操作能力	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの画面に自然に触れて、タップやスワイプなどの基本操作を遊びながら習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやPCの起動と基本画面操作を自分で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な文書作成や画像編集など、デジタルツールの基本機能を自発的に利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット検索やオンライン教材の閲覧を自律的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデジタルツール（文書作成ソフト、表計算、プレゼンテーション）を連携させ、情報整理と保存を自律的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種デジタルツールを統合的に操作し、複雑な文書編集や画像・動画加工を自律的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度なデジタルツールを使いこなし、統合的な情報管理・編集やデータ分析を自律的に実行する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や音声アプリを使い、画面上のコンテンツを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、動画、音楽アプリなどの簡単なデジタル教材を操作し、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音量や画面の明るさなど、基本設定の変更を自分で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの保存・コピー・削除や、コンテンツの整理・フォルダ分けができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なトラブルシューティングを学び、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドサービスを活用して、情報の収集、整理、共有を一連の流れで管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習やプレゼンテーション作成など、実践的な情報活用能力を発揮する。
思考力、判断力、表現力等	生成AIの活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が行う簡単なAIデモ（音声読み上げ、絵の自動生成）を体験し、AIの「話す」「描く」といった基本機能に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のデモを通じ、生成AIが文章や画像を作成する様子を観察し、その働きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフレーズを入力して生成AIが短文を作成する体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に生成AIを用いた情報検索やデータ整理のデモを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動やディスカッションで、生成AIを活用して文章の要約やアイディア出しを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料の作成やプレゼンテーションなど、実践的なタスクに生成AIを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを主体的に活用し、調査活動やレポート作成、プレゼンテーションなど高度な情報活用を実践する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・AIの存在に親しみ、興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な質問や指示に対するAIの返答を体験し、AIの基本的な働きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出力結果に「どうしてこうなったのか？」と疑問を持ち始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指導の下、AIが作成した資料の要約や説明文を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの出力内容と自分の意見を比較し、効果的な活用方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの出力を批判的に評価し、自分の考えを補強するためのツールとして活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの出力や活用プロセスを批判的に分析し、自己の意見形成に活かす。
学びに向かう力、人間性等	情報を批判的に分析・評価する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真、音声などに対して、「楽しい」「きれい」といった直感的な感想を述べ、気づきを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が作成した生成AIの作品（例：絵や短い文章）を見て、どのような表現がされているかを観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見た情報を自分なりに整理し、簡単な要約や並べ替えができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット検索やオンライン教材で得た情報を、自分の言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報源（Webサイト・動画教材など）から得たデータを整理し、利点と欠点を明確に区別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデジタル情報源から収集したデータを表やグラフにまとめ、論理的に比較分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデジタルツール（統計ソフトや可視化ツール等）を使って情報を総合的に評価し、論理的な判断を下す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・その作品について、自分なりの感想や意見をシンプルに口頭で述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIが作成した要約と自分のまとめを比べ、違いを口頭で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの自動要約を既存資料と比べ、情報の正確さや網羅性を簡単に評価し、グループで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの自動分析結果（グラフ作成や要約など）を、手作業で作った結果と照合し、比較検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの分析結果と自らの整理を統合し、論理的な見解を文章でまとめて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの高度な分析結果を他の統計ツールや調査結果と比べ、信頼性や偏りを自律的に検証・議論できる。 	
学びに向かう力、人間性等	情報を創造的に応用する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな色や形、音でタブレットのアプリを使い、自由に絵や音を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイディアを簡単な文章や絵で表現し、教師が作成した生成AIの作品（例：短い要約文や図）を見て、感想や改善点を口頭で述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイディアを簡単な文章や絵で表現し、生成AIが提案する言葉や図と組み合わせてオリジナル作品を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動や個人作業で、生成AIを活用したアイディア出しを行い、テーマに沿った短いプレゼンテーション資料や文章を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデジタルツール（例：文書作成ソフト、图形描画ツール）を連携させ、生成AIの自動レイアウトや要約機能を利用して、独自の作品を創作し、クラス内で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを活用して自分の意見やアイディアを補強し、複雑なプロジェクト型作品（例：プレゼンテーション、ポスターセッション）を自律的に企画・制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを主体的に活用し、調査活動、レポート作成、デザインプロジェクトなど、より高度なデジタルプロジェクトを実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・AIによる誤字脱字チェックなど、基本的な正誤判定の補助を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のデジタルノートやスライド作成ツールを使い、作品の発表準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示したAI作品を参考に、自分たちの表現方法を議論し、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの出力を批判的に検討し、必要に応じて自分のアイディアで補足する方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のツールを組み合わせ、AIの自動編集機能を利用しながら、作品の構成や内容を自己評価し、改善策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの出力や活用プロセスを批判的に分析し、自己の意見を形成する。さらに、複数のデジタルプラットフォームを組み合わせ、創造的な成果物を発表し、フィードバックを受けることで、実践的な情報活用能力を高める。 	
学びに向かう力、人間性等	情報技術を倫理的に活用する態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTやデジタル教材に触れる中で、「いい」「悪い」といったシンプルな感情で使い方の違いを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の説明を受け、デジタルツールの使い方における「正しい使い方」と「間違った使い方」の違いを簡単に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存教材と生成AIの短い要約を比較し、「どちらが分かりやすいか」など簡単な評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやデジタル教材利用時に、著作権やライバシーといった基本的なルールを学び、グループで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを活用した授業で、情報の正確性や著作権などの倫理的観点からの利用の適正さを、グループ内で評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの出力内容やデジタル情報の正確性、法的側面を含む倫理的問題について、批判的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な情報環境下で、著作権、プライバシー、情報偏りなどの倫理的問題について、根拠を持って判断し議論する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・アプリを楽しみながら、基本的なルール（例：他人の作品はそのまま使わない）を直感的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制限付きのAI（例：誤字脱字チェックなど）を体験し、利用時の注意点を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭で、先生の説明に基づき、情報利用のルールについてシンプルな倫理観を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとに、情報技術の正しい使い方について自分なりの考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活用事例を共有し、「正しい使い方」と「悪い使い方」の違いについて議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や討議を通じ、誤った使い方がもたらすリスクと、正しい利用方法の事例を具体的に議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト学習を通じ、情報技術を倫理的に活用するための戦略やルールを自ら検証し、実践する態度を養う。



「新たな情報活用能力体系表(試案)」は
こちらからご確認いただけます。